

ペットボトルを使用した簡易トラップの作り方と設置について

● 誘引液の作り方

2 リットルの ペットボトル用の分量	{	水	… 120ml
		乳酸菌飲料原液	… 180ml
		ドライイースト	… 2.4g (1 袋)

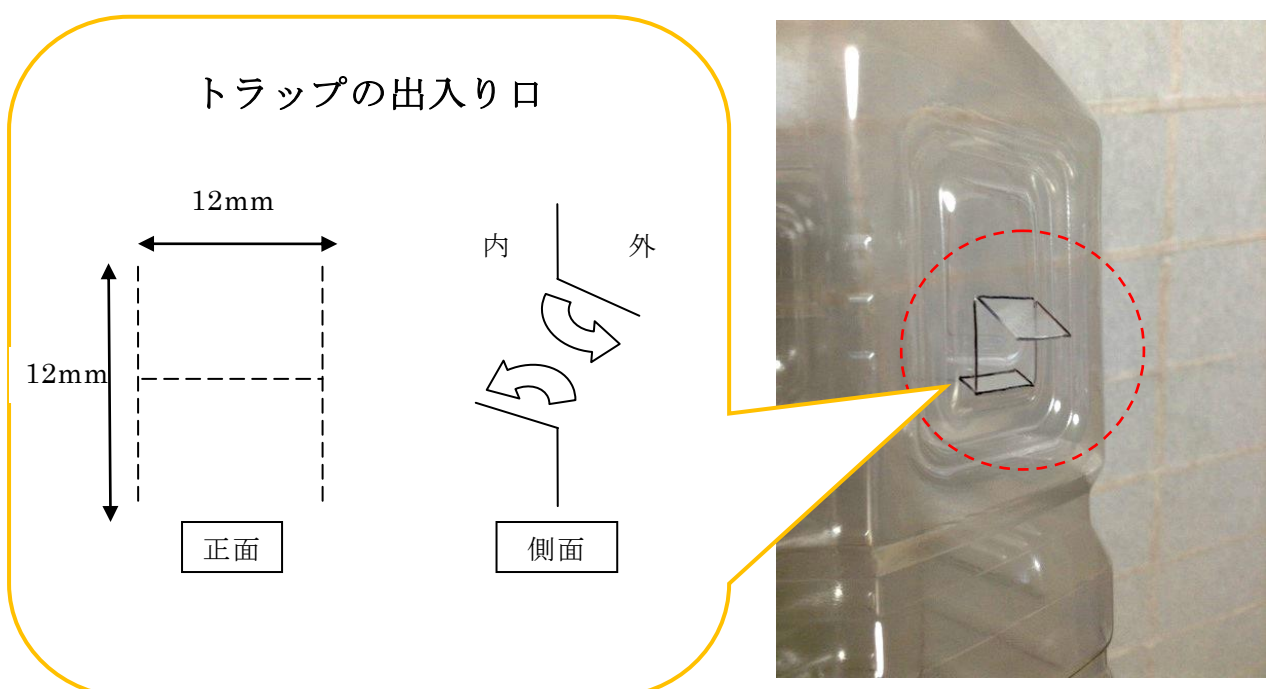
★材料は、ドライイーストを加えるとツマアカスズメバチを誘引する発酵臭が発生しますので、設置する前日もしくは当日に混ぜ合わせてください。

※乳酸菌飲料、ドライイースト、ペットボトル（必要な場合）については、後日配布します。

● トラップ（捕獲器）の作り方

ペットボトルの向かい合う側面二箇所、キャップ上端から約 10cm に H 型の切り込みを入れます。切り込みを入れた上半分を外側に、下半分を内側に折り曲げて入り口を作ってください。折り曲げた上半分が雨水の侵入を防ぐための「屋根」に、下半分がツマアカスズメバチの脱出を防止するための「返し」になります。

入り口の大きさは 12mm を超えないように注意してください。ツマアカスズメバチの脱出や大型の甲虫等の混獲の原因になります（大きなガの仲間が捕獲されて水面を埋め尽くしてしまい、ツマアカスズメバチが溺れなくなる可能性もあります。）。



● 設置とその注意点

トラップは紐などを使い、木の枝や幹に縛って吊り下げます。

設置場所はトラップに直射日光の当たらない、林沿いなどの開けた場所が好ましいです。トラップは人間の目線の高さ（地面から約1.5m）に設置してください。

もし複数個設置する場合はそれぞれを100m 程度離してください。



● 回収とその注意点

設置から2週間ほどで誘引液の効果が弱くなってきます。捕殺した量にかかわらず一度トラップを回収してください。ツマアカスズメバチ（又は他のハチ類）がトラップの中を飛び回っている場合などもありますので、殺虫剤を携帯しておく心安心です。

作業中に、ツマアカスズメバチ（又は他のハチ類）が新たに飛んできたり、周囲で羽休めをしていることもあり、気づきにくい場合も考えられます。近くに存在が確認できた場合は、追い払ったり叩き落としたりして刺激しないよう、じっと静かにして飛び去るのを待ちましょう（刺激すると興奮して襲ってくる可能性があります。）。また、死んでいる場合でも針には刺されることがありますので、トラップから出す際の取扱いには十分ご注意下さい。

● もしも刺されてしまったら

応急処置として以下の対処が有効です。

- ★患部をつまみ毒をしぼり出し、水で冷やす
- ★抗ヒスタミン軟膏やステロイド軟膏の塗布
- ※アンモニアに効き目は無い

めまいや息苦しさを感じた場合は、アレルギー反応のため命にかかわる可能性があります。できるだけ安静にして、すぐに病院へ向かってください。刺されてから30分以内は意識を失う可能性もあります。ご自身での自動車の運転は避けてください。

症状にはかなり個人差がありますが、一般的には約30分以上、上記の症状が見られなければ大丈夫といわれています。

気になる場合は、病院で診てもらいましょう。